

「思いやり」に視点をあてた道徳的心情を育てる指導の工夫

～資料提示と発問の工夫を通して～

道徳班 中山 明子(小学校教諭)

研究の概要

道徳の時間において、資料提示と発問の工夫を通して、道徳的価値の自覚を目指したものである。主人公の心情をとらえ、価値理解を深め、自分とのかかわりで道徳的価値を捉えることを強化する活動を目指した。

児童の実態

相手の努力や成果を素直に賞賛できる反面、相手の思いを汲んだり、立場に立って考えたりできない場面がある。

目指す児童像：まわりの人に思いやりの心情を持つことのできる児童

資料提示の工夫

- ・心情マーク
- ・発問につながるキーワードを入れた場面絵

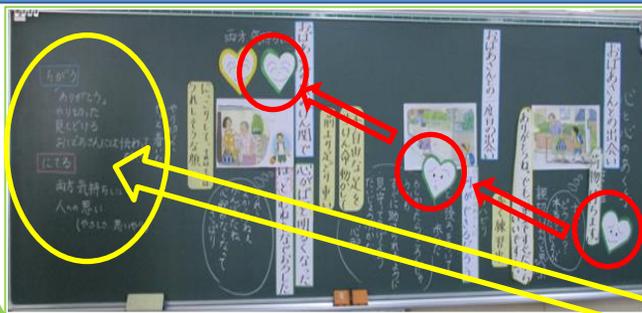
発問の工夫

- ・主人公の心情に焦点をあてて
- ・自分とのかかわりに焦点をあてて

実践2「心と心のあく手」

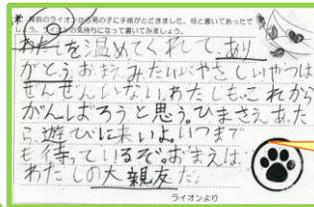


主人公の**心情マーク**(困惑→不安→喜び)が、おばあさんの**心情マーク**に近づいていくことで、相手の思いを汲んだ喜びと満足感を表している。



実践1「青銅のライオン」

○ライオンの心情や態度が変化した場面における発問



ライオンの気持ちになって男の子に手紙を書いてみよう



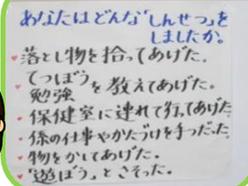
温めてくれてありがとう。わたしもこれからがんばるぞ。

実践2「心と心のあく手」

【事前アンケート】

○主人公と自分の親切を比べ、ちがいに気づかせる発問

みんなの親切とはやと君の親切を比べて、ちがうところ、にているところはどんなことだろう。



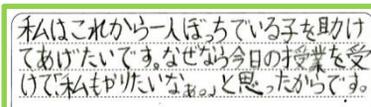
見守りと行動！伝わったことと伝わってないこと！



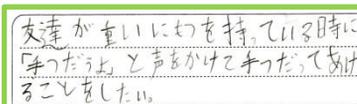
なんとなくレベルの高い親切だよ！
人への思いはいっしょかな・・・



○主人公と自分の親切を比べながら、これからの行動について考えさせる発問



これからどんな親切ができそうですか。



実践2「心と心のあく手」

場面絵



挿絵

おばあさんにはっこりして、それはそれはうれしそうな顔をした。

そのえがおを見て、ぼくの心はほっと明るくなった。
ぼくはほっとむねをなでおろした。



成果と課題

○場面絵や心情マークなど資料提示の工夫と発問の工夫により、主人公の心情を捉えたり、主人公と自分の行動を比較して考えたりすることで、価値理解が深まり、思いやりの心情を持つことができた。

●相手の思いに寄り添った思いやりの心情を持たせるためには、自分の体験などに基づいて考えさせる発問の工夫が大切であり、価値に対する自分の行動や考えをしっかりと振り返る場面を設定し、これからの行動、生き方について自覚を深めることが必要である。